

おくがいしせき  
屋外史跡①

つち せいひん  
—土の製品—

とうせい  
陶製トイレ



つ ぼ

ぼうかようすい  
防火用水

● とうせい  
陶製トイレ

おくがいよう こうしゆう ちちゆう う こえ うえ おき まえ  
屋外用の公衆トイレ。地中に埋めた肥だめがめの上にこのトイレを置き、前  
かがみになりながら使用した。知多市新舞子にあった知多土管(株)が明治  
まつき つく ほっしやじんじや ち たし かなざわ けいだい  
末期に作ったもので、八社神社(知多市金沢)の境内にあったもの。このよ  
うなとうせい めいじちゆうきごろ とこなめし ち たし かまもと のぼ  
うな陶製のトイレは、明治中期頃から、常滑市から知多市にかけての登  
がま や しょうわしよき じんじや てら しゅうかいじょう ひと あつ ところ お  
り窯で焼かれ、昭和初期まで神社や寺、集会場などの人の集まる所に置か  
れていたという。

● ぼうかようすい  
防火用水

ぼうかよう すいそう しない たく つか しょうわ ねんごろ いえ た  
防火用の水槽。市内のお宅で使われていたもので、昭和3年頃に家を建てた  
ときに玄関の横に据えた。底部をレンガやセメントで固定し、家の雨どい  
げんかん よこ す ていぶ こてい いえ あま  
からたれるあまみず た せんそうちゆう ぼうかようすいそう  
雨水を貯めておいた。戦争中には、こうした防火用水槽はなくては  
ならないものだった。